

プレスリリース

歴史の復元と、新しい理想と響きの模索

2020年秋、ベルリン・オラトリオ合唱団は、滅多に演奏される機会のないR. シュトラウスとワルター・ブラウンフェルスを取りあげます。R. シュトラウスの未完の合唱曲「沈思」（トーマス・ヘニッヒによる補筆）は世界初演を迎えます。

このユニークなプログラムは2020年11月22日ベルリン・フィルハーモニーにて演奏されます。第二次世界大戦後75年と東西ドイツ統一後30年が経った現在、ヨーロッパが20世紀に経験した激動の歴史をこの音楽を通して垣間見ることができるでしょう。

リヒャルト・シュトラウスは、プロイセン帝国時代に迎合した、ルートヴィヒ・ウーラントの愛国的なバラード「タイレファー」に基づいて1903年に作曲しました。彼はそれからほぼ半世紀後、二つの世界大戦を経て隠居状態にありましたが、最後の仕事に取り組みます。この作品「沈思」（1949）は、ヘルマン・ヘッセの同名の詩に基づいて作曲されましたが、未完成のまま残されます。指揮者かつ作曲家のトーマス・ヘニッヒは、この曲を完成させるためにシュトラウスの遺族から許可を得ました。このコンサートでは、世紀の芸術家リヒャルト・シュトラウスの世界初演に立ち会うことができます。

後半は、滅多に演奏されることのないヴァルター・ブラウンフェルスの「テ・デウム」（1922）を聴くことができます。ユダヤ系のこの作曲家ははじめプロテスタントに改宗しますが、第一次世界大戦後、カトリックに改宗しました。彼はこの作品の中に戦争の恐怖の現実と更なる意味とを問います。この曲は当時大成功を収め、公演は110回にもものぼりましたが、やがてナチスが台頭して来るとともにこの曲も忘れ去られる運命にあるのです。第二次世界大戦の終結後、ブラウンフェルスは西ドイツ連邦首相コンラート・アデナウアーの依頼によってケルン音楽大学を再建する任務を任されることとなります。しかしながら彼の芸術の再評価がなされるようになったのはわずかここ数年になってのことなのです。

今夜はトーマス・ヘニッヒの指揮の下ローデンキルヒナー 室内合唱団（ケルン）、フォルティス室内合唱団（サンクトペテルブルク）、ベルリンオラトリオ合唱団とベルリン交響楽団により演奏されます。独唱は、イヴォンヌ・フリードリ（ソプラノ）とハンス=ゲオルク・プリーゼ（テノール）が歌います。